

5. 関係地域の範囲

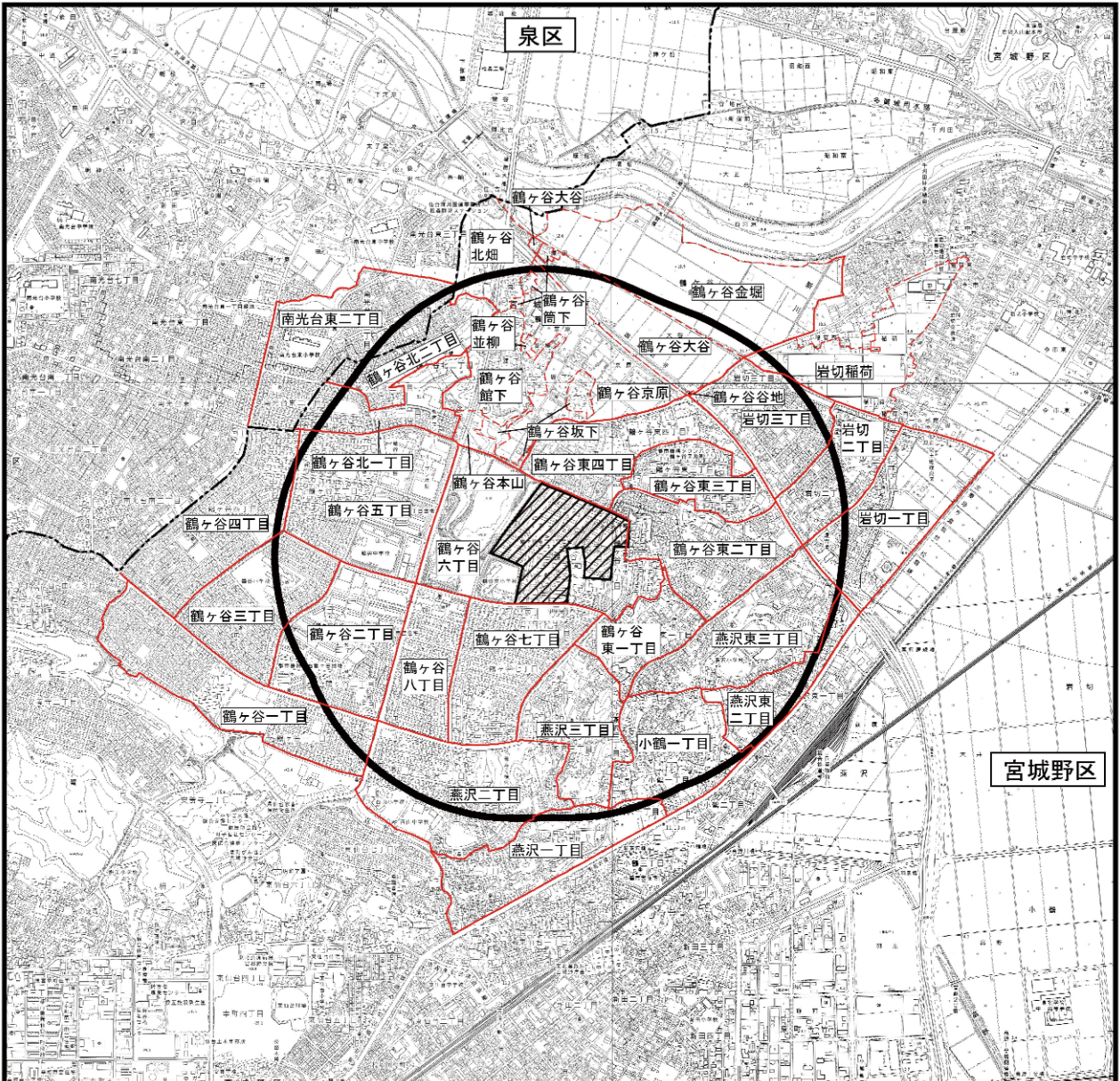
5. 関係地域の範囲

各選定項目の調査・予測範囲等は表 5-1に、関係地域の範囲及び該当する町丁目は図 5-1及び表 5-2に示すとおりである。

関係地域は、「7. 環境影響評価項目の選定」に示す環境影響評価項目として選定した項目のうち、最も広い範囲に影響が及ぶと想定される調査・予測範囲を参考に、計画地から 800m と設定した。

表 5-1 調査・予測範囲等の考え方

項目	調査・予測範囲等の考え方	敷地境界からの距離
大気質	本事業により大気質の変化が想定される範囲とする。	500m 程度
騒音・振動	本事業により騒音・振動レベルの変化が想定される範囲とする。	200m 程度
動物	本事業により動物の生息環境の変化等の影響が生じるおそれのある範囲とする。	200m 程度
景観	本事業により景観に対する影響が生じるおそれのある範囲とする。	800m 程度
自然との 触れ合いの場	本事業により自然との触れ合いの場に対する影響が想定される範囲とする。	500m 程度
廃棄物等	本事業により廃棄物等の発生が考えられる地域とする。	計画地
温室効果 ガス等	本事業により温室効果ガス等の発生が考えられる地域とする。	計画地



凡 例






-  : 計画地
-  : 区界
-  : 大字界
-  : 小字界
-  : 関係地域の範囲(800m)

図 5-1 関係地域の範囲



S=1:25,000

0 500 1000m

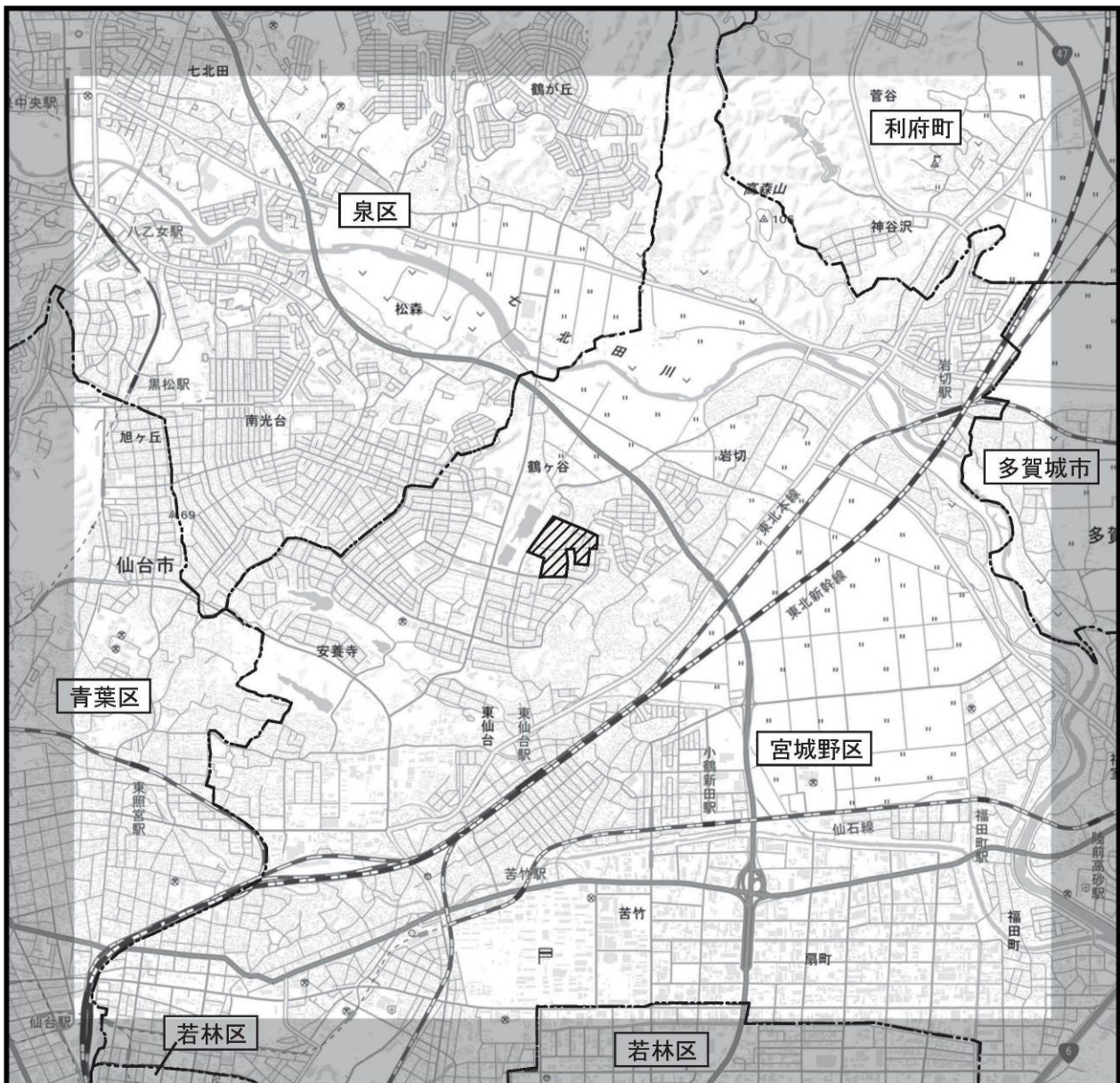
表 5-2 関係地域の住所

区	No.	大字または町丁目	小字
宮城野区	1	燕沢一丁目	-
	2	燕沢二丁目	-
	3	燕沢三丁目	-
	4	燕沢東二丁目	-
	5	燕沢東三丁目	-
	6	岩切	稻荷
	7	岩切一丁目	-
	8	岩切三丁目	-
	9	岩切二丁目	-
	10	小鶴一丁目	-
	11	鶴ヶ谷	大谷
	12	鶴ヶ谷	金堀
	13	鶴ヶ谷	北畑
	14	鶴ヶ谷	京原
	15	鶴ヶ谷	坂下
	16	鶴ヶ谷	館下
	17	鶴ヶ谷	筒下
	18	鶴ヶ谷	並柳
	19	鶴ヶ谷	本山
	20	鶴ヶ谷一丁目	-
	21	鶴ヶ谷二丁目	-
	22	鶴ヶ谷三丁目	-
	23	鶴ヶ谷四丁目	-
	24	鶴ヶ谷五丁目	-
	25	鶴ヶ谷六丁目	-
	26	鶴ヶ谷七丁目	-
	27	鶴ヶ谷八丁目	-
	28	鶴ヶ谷東一丁目	-
	29	鶴ヶ谷東二丁目	-
	30	鶴ヶ谷東三丁目	-
	31	鶴ヶ谷東四丁目	-
	32	鶴ヶ谷北一丁目	-
	33	鶴ヶ谷北二丁目	-
泉区	34	南光台東二丁目	-

6 . 地域の概況

6. 地域の概況

地域の概況における調査範囲(以下、「調査範囲」という)は「仙台市環境影響評価技術指針マニュアル」(平成31年1月 仙台市)(以下、「技術マニュアル」という)に示されている概況調査範囲(5~10km)を踏まえ、計画地を中心とした概ね8km四方の範囲とした(図6-1参照)。



凡 例




-  : 計画地
-  : 市区町界
-  : 地域の概況における調査範囲
(計画地を中心として概ね8km四方)

図 6-1 地域の概況調査範囲



S=1:50,000

0 1250 2500m

6.1 自然的状況

6.1.1 大気環境

(1) 気象

計画地の最寄りの気象観測所である仙台管区気象台(仙台市宮城野区五輪 1-3-15 仙台第3合同庁舎)の位置は図 6.1-1、仙台管区気象台における平成 22 年～令和元年の気象の概況及び令和元年の気象の概況は表 6.1-1 及び表 6.1-2 に示すとおりである。

ア．気温の状況

平成 22 年～令和元年の 10 年間の平均気温は 13.2 、月最高気温の平均値は 24.4 、月最低気温の平均値は 5.0 である。

令和元年の平均気温は 13.6 、最高気温の平均値は 24.9 、最低気温の平均値は 5.3 である。

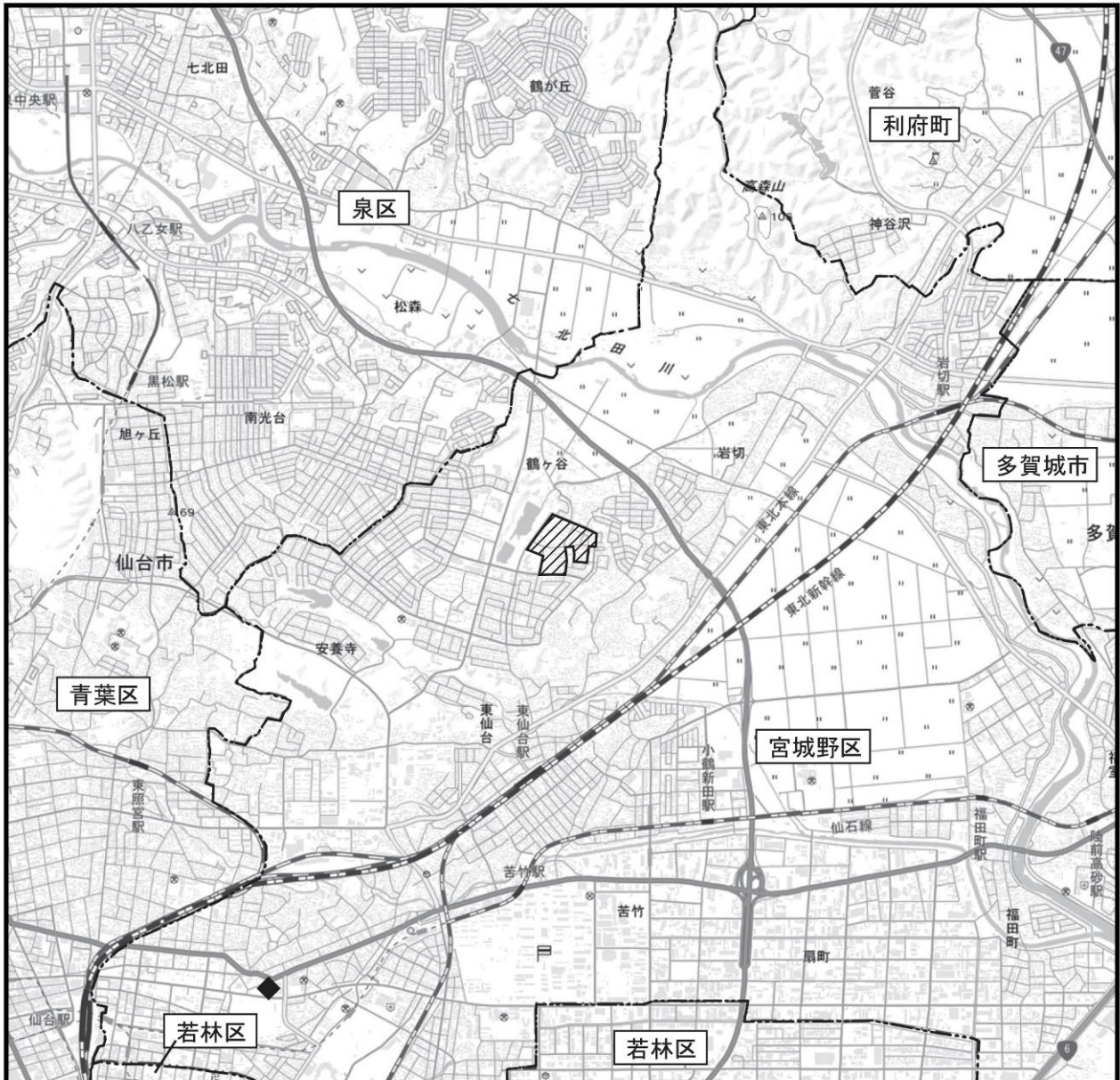
イ．降水量の状況

平成 22 年～令和元年の 10 年間の平均年間降水量は 1,281mm である。令和元年の年間降水量は 1,390mm と過去 10 年間の平均年間降水量に対して約 100mm 多い。




ウ．風向・風速の状況

平成 22 年～令和元年の 10 年間の年間平均風速は 3.1m/秒である。風向は 1 月～4 月及び 9 月～12 月にかけて北北西及び西北西の風が、5 月～8 月にかけて南東の風が卓越している。

令和元年の年間平均風速は 3.1m/秒、風向は 1 月～4 月及び 9 月～12 月にかけて北北西及び西北西の風が、5 月～8 月にかけて南東及び東南東の風が卓越しており、平成 22 年～令和元年の 10 年間とほぼ同様の傾向が見られる。



凡 例

-  : 計画地
-  : 市区町界
-  : 仙台管区気象台

出典：1. 「気象台の位置」（平成30年9月閲覧 気象台）
<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>
 2. 「仙台管区気象台」（平成30年9月閲覧 仙台管区気象台）
<https://www.jma-net.go.jp/sendai/index.html>

図 6.1-1 仙台管区気象台の位置



S=1:50,000

0 1250 2500m

表 6.1-1 気象の概況（仙台管区气象台：平成 22 年～令和元年）

月	項目	気温（℃）			降水量 （mm）	日照時間 （時間）	平均風速 （m/秒）	最多風向
		平均	最高	最低				
1月		1.8	11.4	-5.2	27.1	159.2	3.5	北北西/西北西
2月		2.3	14.2	-4.8	31.9	155.6	3.5	北北西
3月		5.8	19.1	-2.3	90.2	181.2	3.6	北北西
4月		10.7	23.7	0.9	97.2	196.0	3.5	北北西/西北西
5月		16.4	29.3	7.2	119.3	221.3	3.2	南東
6月		19.7	29.9	11.2	146.0	163.0	2.9	南東
7月		24.0	34.1	17.2	123.8	144.9	2.5	南東
8月		25.3	35.2	18.6	136.1	152.7	2.6	南東
9月		21.7	32.5	12.7	221.5	143.8	2.9	北北西
10月		16.0	27.7	6.6	183.8	153.5	3.1	北北西
11月		9.9	20.6	0.8	43.5	145.7	3.0	北北西
12月		4.5	15.7	-2.6	61.1	145.1	3.3	北北西
年間		13.2	24.4	5.0	1,281	1,962	3.1	北北西/西北西

：年間における各項目は、以下のとおり。

気 温：月平均気温、月最高(低)気温の10年間における平均値

降 水 量：月間降水量の10年間における平均値

日照時間：月間日照時間の10年間における平均値

平均風速：月平均風速の10年間における平均値

最多風向：月最多風向の10年間における最多風向

出典：気象庁 HP「過去の気象データ検索」(令和2年7月閲覧)(<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> 気象庁)

表 6.1-2 気象の概況（仙台管区气象台：令和元年）

月	項目	気温（℃）			降水量 （mm）	日照時間 （時間）	平均風速 （m/秒）	最多風向
		平均	最高	最低				
1月		2.4	10.1	-3.6	4.0	171.5	3.6	北北西
2月		3.7	16.8	-3.4	13.0	161.8	3.4	西北西
3月		7.0	17.8	-1.0	83.0	205.4	3.4	北北西
4月		10.2	22.4	-1.0	90.5	211.2	3.5	西北西
5月		17.4	32.1	6.5	81.0	294	3.3	南東
6月		19.0	27.7	11.7	168.5	156.4	3.0	南東
7月		22.4	36.1	16.0	111.5	102.7	2.4	南東
8月		26.2	35.1	20.7	88.5	144.3	2.6	東南東
9月		22.4	33.9	14.1	72.5	154.7	2.6	北北西
10月		16.9	28.9	6.7	644.5	135.2	3.4	北北西
11月		10.0	21.4	-1.6	5.5	162.7	3.1	北北西
12月		5.4	16.2	-1.9	27.0	156.1	3.1	北北西
年間		13.6	24.9	5.3	1,390	2,056	3.1	北北西

：年間における各項目は、以下のとおり。

気 温：月平均気温、月最高(低)気温

降 水 量：月間降水量

日照時間：月間日照時間

平均風速：月平均風速

最多風向：月最多風向

出典：気象庁 HP「過去の気象データ検索」(令和2年7月閲覧)(<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> 気象庁)

(2) 大気質

ア. 大気汚染の状況

各測定局の測定項目等は表 6.1-3、常時監視測定局の位置は図 6.1-2 に示すとおりである。

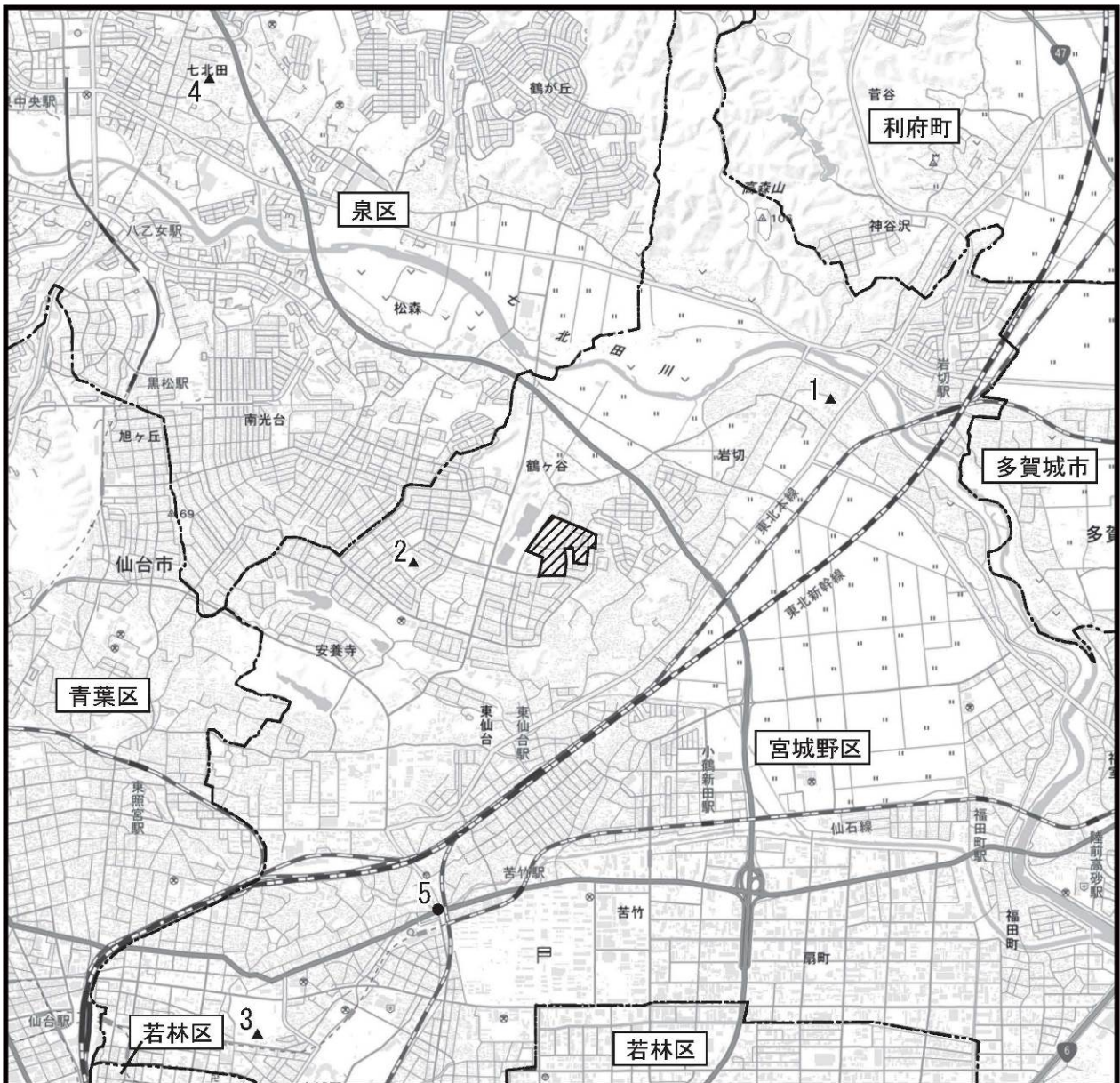
調査範囲内には、大気汚染常時監視測定局として、一般環境大気測定局が 4 局（岩切測定局、鶴谷測定局、榴岡測定局、七北田測定局）、自動車排出ガス測定局が 1 局（苦竹測定局）設置されている。

表 6.1-3 大気汚染常時監視測定局の測定項目

測定局種別	No.	測定局名	二酸化硫黄	二酸化窒素	光化学オキシダント	浮遊粒子状物質	一酸化炭素	微小粒子状物質	非メタン炭化水素
一般環境大気	1	岩切	-	-	○	○	-	○	-
	2	鶴谷	-	○	○	○	-	-	-
	3	榴岡	○	○	○	○	-	○	○
	4	七北田	-	○	○	○	-	○	-
自動車排出ガス	5	苦竹	○	○	-	○	-	-	

：表中の No. は、図 6.1-2 に対応する。

出典：「公害関係資料集（令和元年度測定結果）」（仙台市環境局）



凡 例

 : 計画地

----- : 市区町界

▲ : 一般環境大気測定局 (図中番号 : 1~4)

● : 自動車排出ガス測定局 (図中番号 : 5)

: 図中の番号は表 6.1-3 に対応する。
 出典: 『公害関係資料集(平成 24 年度~平成 28 年度測定結果)』

図 6.1-2 大気質の測定地点位置



S=1:50,000

0 1250 2500m

二酸化硫黄(SO₂)

令和元年度における二酸化硫黄測定結果は表 6.1-4、平成 24 年度～令和元年度までの 8 年間に
おける年平均値及び日平均値の 2%除外値の経年変化は表 6.1-5 に示すとおりである。

いずれの測定局においても、短期的評価及び長期的評価とも環境基準を満足している。また、経
年変化は年平均値及び日平均値の 2%除外値ともに、いずれの測定局でも横ばい傾向を示してい
る。

表 6.1-4 二酸化硫黄測定結果（令和元年度）

種別	測定局	用途地域	有効測定日数	測定時間	年平均値	短期的評価				長期的評価			
						1 時間値が 0.1ppm を超えた時間数とその割合		日平均値が 0.04ppm を超えた日数とその割合		1 時間値の最高値	日平均値の 2% 除外値	日平均値が 0.04ppm を超えた日が 2 日以上連続したことの有無	環境基準の長期的評価による日平均値が 0.04ppm を超えた日数
						時間	%	日	%				
一般環境	榴岡	近隣商業	351	8435	0.000	0	0.0	0	0.0	0.012	0.001		0
自排	苦竹	商業	364	8681	0.000	0	0.0	0	0.0	0.008	0.001		0
環境基準			1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm 以下であり、かつ、1 時間値が 0.1ppm 以下であること										

出典：「公害関係資料集（令和元年度測定結果）」（仙台市環境局）

表 6.1-5 二酸化硫黄経年変化（平成 24 年度～令和元年度）

単位：ppm

種別	測定局	項目	年度							
			平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年
一般環境	榴岡	年平均値	0.000	0.001	0.001	0.000	0.001	0.000	0.000	0.000
		日平均値の 2% 除外値	0.002	0.002	0.002	0.002	0.001	0.002	0.002	0.001
自排	苦竹	年平均値	(0.001)	0.000	0.000	0.001	0.000	0.000	0.000	0.000
		日平均値の 2% 除外値	(0.002)	0.002	0.002	0.002	0.001	0.001	0.001	0.001

：（ ）内は、有効測定時間未滿の測定値

出典：「公害関係資料集（令和元年度測定結果）」（仙台市環境局）

二酸化窒素(NO₂)

令和元年度における二酸化窒素測定結果は表 6.1-6、平成 24 年度～令和元年度までの 8 年間に
おける年平均値及び日平均値の年間 98% 値の経年変化は表 6.1-7 に示すとおりである。

いずれの測定局においても環境基準を満足している。また、経年変化は年平均値及び日平均値の
年間 98% 値ともに、いずれの測定局も減少傾向がみられる。

表 6.1-6 二酸化窒素測定結果 (令和元年度)

種別	測定局	用途地域	有効測定日数		年平均値	1 時間 値の 最高値	1 時間値が 0.2ppm を 超えた時間 数とその割 合		1 時間値が 0.1ppm 以 上 0.2ppm 以 下の時間数 と その割合		日平均値が 0.06ppm を超えた 日数と その割合		日平均値が 0.04ppm 以 上 0.06ppm 以下の日数 とその割合		日平均 値の 年間 98% 値	98% 値評価に よる 日平均値が 0.06ppm を 超えた日数
			日	時間			時間	%	時間	%	日	%	日	%		
一般環境	鶴谷	第一種低層 住居専用	360	8614	0.007	0.052	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.018	0
	榴岡	近隣商業	361	8651	0.008	0.048	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.020	0
	七北田	第一種住居	361	8649	0.008	0.045	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.020	0
自排	苦竹	商業	364	8686	0.012	0.054	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.026	0
環境基準			1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下であること													

出典：「公害関係資料集（令和元年度測定結果）」（仙台市環境局）

表 6.1-7 二酸化窒素経年変化 (平成 24 年度～令和元年度)

単位：ppm

種別	測定局	項目	年度								令和 元年
			平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年		
一般環境	鶴谷	年平均値	0.009	0.009	0.009	0.008	0.007	0.008	0.007	0.007	
		日平均値の年間 98% 値	0.024	0.024	0.020	0.020	0.020	0.020	0.020	0.018	0.018
	榴岡	年平均値	0.011	0.011	0.010	0.009	0.008	0.009	0.009	0.009	0.008
		日平均値の年間 98% 値	0.026	0.028	0.022	0.022	0.019	0.022	0.022	0.020	0.020
	七北田	年平均値	0.011	0.011	0.010	0.010	0.009	0.009	0.009	0.008	0.008
		日平均値の年間 98% 値	0.026	0.027	0.023	0.024	0.022	0.021	0.021	0.019	0.020
自排	苦竹	年平均値	0.018	0.018	0.016	0.016	0.014	0.014	0.013	0.012	
		日平均値の年間 98% 値	0.033	0.035	0.029	0.029	0.028	0.027	0.025	0.026	

出典：「公害関係資料集（令和元年度測定結果）」（仙台市環境局）

光化学オキシダント(O_x)

令和元年度における光化学オキシダントの測定結果は表 6.1-8、平成 24 年度～令和元年度までの 8 年間における 1 時間値が 0.06ppm を超えた日数及び時間数の経年変化は表 6.1-9 に示すとおりである。

令和元年度における昼間の 1 時間値が 0.06ppm を超えた時間は、岩切測定局では 53 時間(9 日)、鶴谷測定局では 197 時間(35 日)、榴岡測定局では 188 時間(33 日)、七北田測定局では 172 時間(32 日)発生し、昼間の 1 時間値の最高値は岩切測定局では 0.078ppm、鶴谷測定局では 0.097ppm、榴岡測定局では 0.103ppm、七北田測定局では 0.099ppm と環境基準(0.06ppm)を満足していない。また、1 時間値が 0.06ppm を超えた日数及び時間数ともに平成 29 年度の七北田測定局が最多となっている。

表 6.1-8 光化学オキシダント測定結果(令和元年度)

種別	測定局	用途地域	昼間の測定日数	昼間の測定時間	昼間の 1 時間値の年平均値	昼間の 1 時間値が 0.06ppm を超えた日数と時間数		昼間の 1 時間値が 0.12ppm 以上の日数と時間数		昼間の 1 時間値の最高値	昼間の日最高 1 時間値の平均値
			日	時間	ppm	日	時間	日	時間	ppm	ppm
一般環境	岩切	第一種住居	366	5437	0.028	9	53	0	0	0.078	0.038
	鶴谷	第一種低層住居専用	362	5363	0.035	35	197	0	0	0.097	0.044
	榴岡	近隣商業	366	5419	0.034	33	188	0	0	0.103	0.043
	七北田	第一種住居	366	5400	0.033	32	172	0	0	0.099	0.044
環境基準			1 時間値が 0.06ppm 以下であること								

出典：「公害関係資料集(令和元年度測定結果)」(仙台市環境局)

表 6.1-9 光化学オキシダント経年変化(平成 24 年度～令和元年度)

種別	測定局	項目	年度								
			平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年	
一般環境	岩切	1 時間値が 0.06ppm を超えた	日数(日)	8	12	19	20	10	19	28	9
			時間数(時間)	29	45	96	97	28	101	132	53
	鶴谷	1 時間値が 0.06ppm を超えた	日数(日)	27	20	42	49	30	44	43	35
			時間数(時間)	88	76	238	279	103	257	224	197
	榴岡	1 時間値が 0.06ppm を超えた	日数(日)	15	19	47	49	24	43	42	33
			時間数(時間)	44	73	237	285	107	243	225	188
	七北田	1 時間値が 0.06ppm を超えた	日数(日)	37	31	43	52	35	54	46	32
			時間数(時間)	140	123	264	270	140	345	246	172

出典：「公害関係資料集(令和元年度測定結果)」(仙台市環境局)

浮遊粒子状物質 (SPM)

令和元年度における浮遊粒子状物質の測定結果は表 6.1-10、平成 24 年度～令和元年度までの 8 年間に於ける年平均値及び日平均値の 2%除外値の経年変化は表 6.1-11 に示すとおりである。

いずれの測定局においても、環境基準の短期的評価及び長期的評価を満足している。また、経年変化は年平均値が平成 24 年度から令和元年度にかけて、いずれの測定局も大きな変化はみられていない。

表 6.1-10 浮遊粒子状物質測定結果 (令和元年度)

種別	測定局	用途地域	有効測定日数	測定時間	年平均値	短期的評価					長期的評価		
						1 時間値が 0.20mg/m ³ を超えた時間数とその割合		日平均値が 0.10mg/m ³ を超えた日数とその割合		1 時間値の最高値	日平均値の 2% 除外値	日平均値が 0.10mg/m ³ を超えた日が 2 日以上連続したことの有無	環境基準の長期的評価による日平均値が 0.10mg/m ³ を超えた日数
						時間	%	日	%	mg/m ³	mg/m ³	有&・無○	日
一般環境	岩切	第一種住居	365	8740	0.013	0	0.0	0	0.0	0.110	0.045		0
	鶴谷	第一種低層住居専用	366	8747	0.013	0	0.0	0	0.0	0.076	0.037		0
	榴岡	近隣商業	365	8737	0.012	0	0.0	0	0.0	0.120	0.043		0
	七北田	第二種住居	363	8693	0.010	0	0.0	0	0.0	0.069	0.031		0
自排	苦竹	商業	352	8530	0.015	0	0.0	0	0.0	0.092	0.042		0
環境基準			1 時間値の 1 日平均値が 0.10mg/m ³ 以下であり、かつ 1 時間値が 0.20mg/m ³ 以下であること										

出典：「公害関係資料集 (令和元年度測定結果)」(仙台市環境局)

表 6.1-11 浮遊粒子状物質経年変化 (平成 24 年度～令和元年度)

単位：mg/m³

種別	測定局	項目	年度							
			平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年
一般環境	岩切	年平均値	0.016	0.017	0.018	0.016	0.013	0.014	0.015	0.013
		日平均値の 2% 除外値	0.039	0.042	0.044	0.039	0.032	0.034	0.040	0.045
	鶴谷	年平均値	0.018	0.019	0.018	0.017	0.014	0.014	0.015	0.013
		日平均値の 2% 除外値	0.037	0.044	0.043	0.046	0.031	0.034	0.038	0.037
	榴岡	年平均値	0.013	0.013	0.014	0.012	0.010	0.013	0.014	0.012
		日平均値の 2% 除外値	0.035	0.048	0.044	0.042	0.027	0.034	0.039	0.043
七北田	年平均値	0.016	0.017	0.017	0.014	0.010	0.011	0.010	0.010	
	日平均値の 2% 除外値	0.042	0.043	0.044	0.038	0.023	0.027	0.028	0.031	
自排	苦竹	年平均値	0.021	0.021	0.021	0.021	0.018	0.018	0.019	0.015
		日平均値の 2% 除外値	0.053	0.059	0.054	0.051	0.042	0.044	0.048	0.042

出典：「公害関係資料集 (令和元年度測定結果)」(仙台市環境局)

一酸化炭素(CO)

「公害関係資料集」(令和元年度測定結果)(仙台市環境局)によると、調査範囲では一酸化炭素の測定は行われていない。

微小粒子状物質(PM2.5)

令和元年度における微小粒子状物質の測定結果は表 6.1-12、平成 24 年度～令和元年度までの 8 年間に於ける年平均値及び日平均値の年間 98% 値の経年変化は表 6.1-13 に示すとおりである。

令和元年度における測定結果は、いずれの測定局においても、環境基準の長期基準及び短期基準ともに満足している。なお、日平均値が 35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えた日数は、岩切測定局では 0 日、榴岡測定局で 0 日、七北田測定局で 0 日、苦竹測定局で 0 日であった。また、経年変化は年平均値、日平均値の 98% 値ともに、いずれの測定局においても横ばい傾向が見られる。

表 6.1-12 微小粒子状物質測定結果（令和元年度）

種別	測定局	用途地域	有効測定日数	年平均値	日平均値の年間 98% 値	日平均値が 35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えた日数とその割合	
			日	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	日	%
一般環境	岩切	第一住	342	5.9	17.0	0	0.0
	榴岡	近隣商業	346	7.3	21.5	0	0.0
	七北田	第二住	353	8.1	21.2	0	0.0
自排	苦竹	商業	352	8.7	24.1	0	0.0
環境基準		1 年平均値が 15 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であり、かつ、1 日平均値が 35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。					

長期基準及び短期基準の評価を各々実施した上で両者の基準の達成状況から評価する。

・長期基準は年平均値を環境基準（15 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下）と比較して評価する。

・短期基準は日平均値の年間 98% 値を日平均値の代表値として環境基準（35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下）と比較して評価する。

出典：「公害関係資料集（令和元年度測定結果）」（仙台市環境局）

表 6.1-13 微小粒子状物質経年変化（平成 24 年度～令和元年度）

単位： $\mu\text{g}/\text{m}^3$

種別	測定局	項目	年度							
			平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年
一般環境	岩切	年平均値	-	-	(9.4)	10.1	8.2	8.8	8.2	5.9
		日平均値の年間 98% 値	-	-	(27.8)	28.1	20.4	23.0	23.0	17.0
	榴岡	年平均値	11.6	12.0	11.5	12.9	11.1	9.6	10.3	7.3
		日平均値の年間 98% 値	29.6	34.8	30.5	34.3	25.7	27.3	30.4	21.5
	七北田	年平均値	-	-	(9.4)	9.6	8.0	7.5	10.6	8.1
		日平均値の年間 98% 値	-	-	(26.3)	26.8	19.2	21.5	26.3	21.2
自排	苦竹	年平均値	13.2	12.9	13.2	12.7	10.5	10.7	11.4	8.7
		日平均値の年間 98% 値	30.4	36.1	32.0	33.4	24.8	28.3	30.8	24.1

：（ ）内は有効測定日数未滿の測定値

出典：「公害関係資料集（令和元年度測定結果）」（仙台市環境局）

非メタン炭化水素(NMHC)

令和元年度における非メタン炭化水素の測定結果は表 6.1-14、平成 24 年度～令和元年度までの 8 年間に於ける年平均値及び日平均値の年間 98% 値の経年変化は表 6.1-15 に示すとおりである。

非メタン炭化水素には環境基準が設定されていないが、光化学オキシダントの生成防止のための「大気中鉛の健康影響について及び光化学オキシダントの生成防止のための大気中炭化水素濃度の指針について(中央公害対策審議会答申)」（昭和 51 年 8 月 17 日 環大企 220 号）として「6～9 時の 3 時間平均値が 0.20～0.31ppmC の範囲にあること」と示されている。

令和元年度における 6～9 時の 3 時間平均値が 0.31ppmC を越えた日数は、榴岡測定局で発生していない。また、経年変化は、年平均値、6～9 時に於ける年平均値ともに、榴岡測定局においては概ね横ばい傾向を示している。

表 6.1-14 非メタン炭化水素測定結果（令和元年度）

種別	測定局	用途地域	測定時間	年平均値	6～9 時における年平均値	6～9 時測定日数	6～9 時の 3 時間平均値		6～9 時の 3 時間平均値が 0.20ppmC を越えた日数とその割合		6～9 時の 3 時間平均値が 0.31ppmC を越えた日数とその割合	
							最高値	最低値	日	%	日	%
							ppmC	ppmC				
一般環境	榴岡	近隣商業	7797	0.07	0.08	340	0.25	0.01	4	1.2	0	0.0

出典：「公害関係資料集（令和元年度測定結果）」（仙台市環境局）

表 6.1-15 非メタン炭化水素経年変化（平成 24 年度～令和元年度）

種別	測定局	項目	年度								令和元年
			平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年		
一般環境	榴岡	年平均値 (ppmC)	0.06	0.06	0.11	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09	0.07
		6～9 時における年平均値 (ppmC)	0.07	0.07	0.12	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.08
		6～9 時 3 時間平均値	0.20ppmC を越えた日数 (日)	13	8	18	14	14	15	16	4
			その割合 (%)	3.8	2.3	6.5	3.9	4.0	4.2	4.6	1.2
			0.31ppmC を越えた日数 (日)	2	0	0	3	1	1	5	0
その割合 (%)	0.6	0.0	0.0	0.8	0.3	0.3	1.4	0.0			

出典：「公害関係資料集（令和元年度測定結果）」（仙台市環境局）

イ．大気質に係る苦情の状況

仙台市における平成 24 年度～令和元年度の大気質に係る苦情件数の推移は表 6.1-16、多賀城市における平成 24 年度～平成 30 年度の大気質に係る苦情件数の推移は表 6.1-17 に示すとおりである。

仙台市では、ばい煙の苦情件数が年間 1 件～15 件、粉じんの苦情件数が年間 9 件～25 件で推移している。多賀城市では、大気汚染の苦情件数が年間 1 件～9 件で推移している。なお、利府町では大気汚染に係る苦情は報告されていない。

表 6.1-16 大気質に係る苦情件数の経年変化（仙台市内：平成 24 年度～令和元年度）

単位：件

項目 \ 年度	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年	令和元年
ばい煙	15	4	4	8	5	2	1	3
粉じん	25	20	16	15	9	11	24	12

出典：「公害関係資料集（平成 24 年度～令和元年度測定結果）」（仙台市環境局）

表 6.1-17 大気質に係る苦情件数の経年変化（多賀城市内：平成 24 年度～平成 30 年度）

単位：件

市町村 \ 年度	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年
多賀城市 \ 大気汚染	1	1	5	2	1	9	3

：ばい煙、粉じんの内訳は、宮城県環境対策課では把握されていない。

出典：「公害苦情調査結果報告書（平成 24 年度～平成 30 年度）」（宮城県環境生活部環境対策課）

ウ．発生源の状況

仙台市における大気汚染防止法に基づくばい煙発生施設数及び事業場数並びに一般粉じん発生施設数及び事業場数は表 6.1-18、多賀城市における大気汚染防止法に基づくばい煙発生施設数及び事業場数並びに一般粉じん発生施設数及び事業場数は表 6.1-19、利府町における大気汚染防止法に基づくばい煙発生施設数及び事業場数並びに一般粉じん発生施設数及び事業場数は表 6.1-20 のとおりである。

関係地域内では表 6.1-21 に示すばい煙発生施設を有する事業場が存在しており、その位置は図 6.1-3 に示すとおりである。なお一般粉じん発生施設は存在しない。

表 6.1-18 仙台市内のばい煙及び一般粉じんの発生施設数及び事業場数（令和元年度）

単位：件

項目	年度	令和元年	
	ばい煙	発生施設数（事業場数）	1,600（760）
粉じん	118(20)		

出典：「公害関係資料集」（令和元年度測定結果）（仙台市環境局）

表 6.1-19 多賀城市内のばい煙及び一般粉じんの発生施設数及び事業場数（平成 26 年度）

単位：件

項目	年度	平成 26 年	
	ばい煙	発生施設数（事業場数）	120(39)
粉じん	15(1)		

出典：「平成 26 年度宮城県公害資料（大気編）」（宮城県環境生活部環境対策課）

表 6.1-20 利府町内のばい煙及び一般粉じんの発生施設数及び事業場数（平成 26 年度）

単位：件

項目	年度	平成 26 年	
	ばい煙	発生施設数（事業場数）	55(22)
粉じん	26(2)		

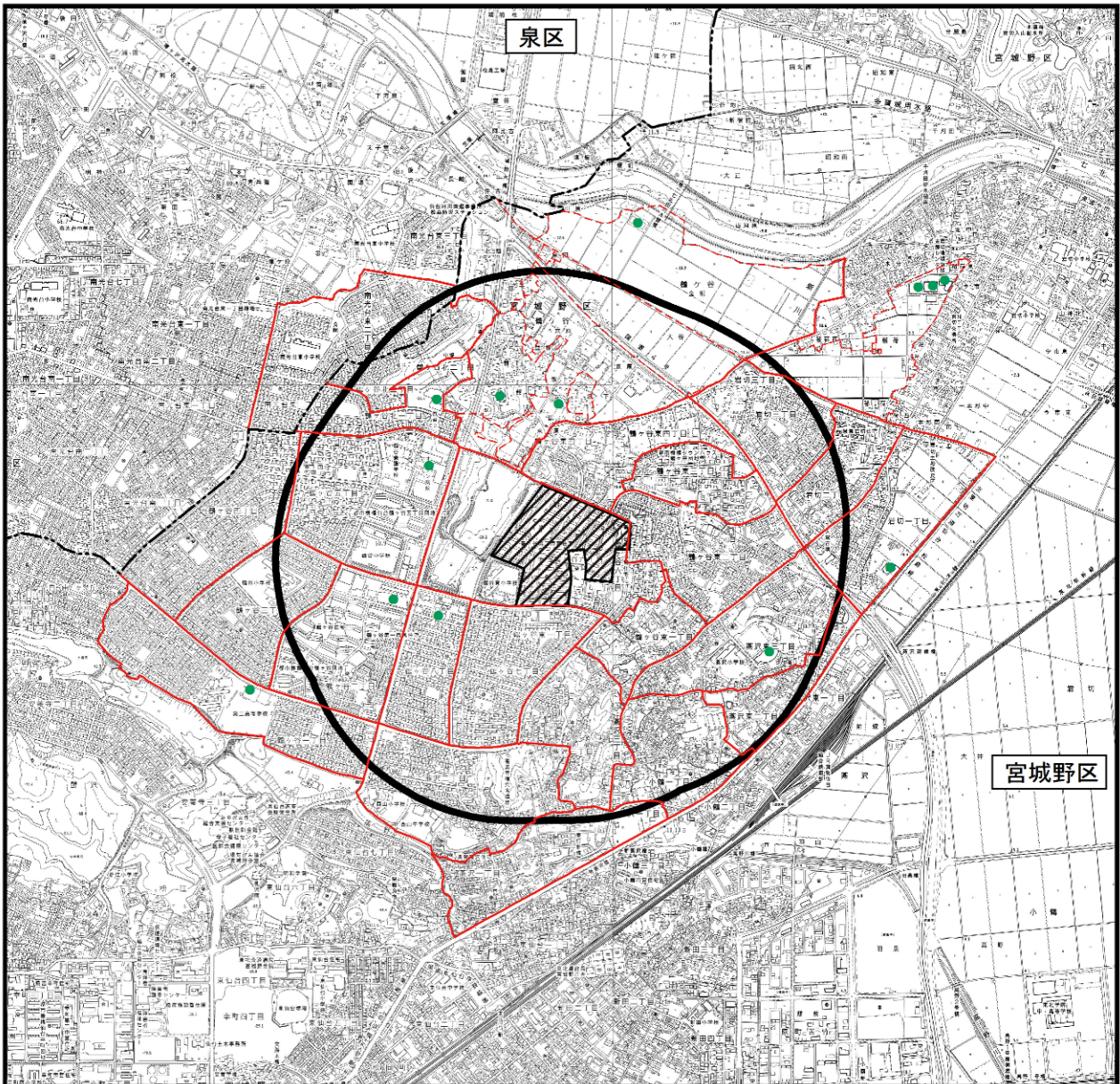
出典：「平成 26 年度宮城県公害資料（大気編）」（宮城県環境生活部環境対策課）

表 6.1-21 大気汚染防止法（ばい煙）に基づく発生施設数







区名	発生施設所在地	事業所数	施設数	
			総数	内訳
宮城野区	燕沢東三丁目	1	1	ボ イ ラ ー：1
	岩切一丁目	1	2	ボ イ ラ ー：2
	岩切字稲荷	3	4	ボ イ ラ ー：4
	鶴ヶ谷一丁目	1	2	ボ イ ラ ー：2
	鶴ヶ谷五丁目	1	9	ボ イ ラ ー：6 ディーゼル機関：3
	鶴ヶ谷字館下	1	2	ボ イ ラ ー：2
	鶴ヶ谷字京原	1	1	ボ イ ラ ー：1
	鶴ヶ谷字金堀	1	1	ガ ス タ ー ビ ン：1
	鶴ヶ谷二丁目	1	1	ディーゼル機関：1
	鶴ヶ谷八丁目	1	2	ボ イ ラ ー：2
	鶴ヶ谷北一丁目	1	2	ボ イ ラ ー：2

出典：「大気汚染防止法に基づくばい煙発生施設一覧」（平成 30 年 3 月 31 日現在 仙台市）

「大気汚染防止法に基づく一般粉じん発生施設一覧」（平成 30 年 3 月 31 日現在 仙台市）



凡 例

-  : 計画地
-  : 区界
-  : 大字界
-  : 小字界
-  : 関係地域の範囲(800m)
-  : 大気汚染防止法(ばい煙)に基づく発生施設

出典：「大気汚染防止法に基づくばい煙発生施設一覧」(平成30年3月31日現在 仙台市)
「大気汚染防止法に基づく一般粉じん発生施設一覧」(平成30年3月31日現在 仙台市)

図 6.1-3 大気汚染防止法(ばい煙)に基づく発生施設



S=1:25,000

